

◆4番（松井英雄君） 4番、公明党長野市議員団、松井英雄です。

学生消防団活動認証制度について伺います。

この制度は、総務省消防庁が2014年11月、同制度を積極的に導入するよう、全国の自治体に通知を出したもので、大学生や専門学校生が消防団員として地域に貢献した功績を認証し、学生消防団活動認証状を交付するものです。認証状を受け取った学生にとっては、就職活動の際に企業に評価されるアピール項目になり、企業側も社会に貢献してきた面に加え、消防団経験者を採用することで災害時の対応力が生まれるメリットがあります。

東京消防庁のホームページでは、認証制度を活用した方の声として、面接時に消防団活動を通しての経験などを話し、自己PRができたなどが掲載されております。2015年には東京23区などで始まり、今年からは横浜市を初め、各地で制度をスタートさせております。長野県においては、上田市がこの制度をスタートさせております。

制度誕生の背景には、消防団員減少と高齢化があります。1975年には110万人を超えていた団員数も、昨年は86万人を割り、平均年齢も同じく33.3歳から40.2歳まで上がっています。長野市の消防団員数は3,414人で、平均年齢は41.8歳で、団員数、平均年齢共に横ばいで推移しているとはいえ、年齢では全国平均より高い傾向にあります。

消防という面から見ても、新たな担い手としても、これからは若い世代の力が大切ではないでしょうか。また、この制度を通じ、県内外の学生を市内企業へ就職を促すとともに、就職後も継続して地域の担い手として、消防団を初め、若い力を発揮いただけるのではないのでしょうか。長野市においても学生消防団活動認証制度を積極的に導入すべきと考えますが、お考えをお聞かせください。

（4番 松井英雄君 質問席へ移動）

◎消防局長（瀧澤親男君） 本市消防団は、現在1団6方面隊74分団の定数3,430名体制で、充足率は99.5パーセントの状況となっております。また、12月1日現在の平均年齢は、全国平均よりも1.6歳高い状況でございます。女性消防団員や音楽隊員を積極的に任用しており、音楽隊の中に学生団員として女性1名が入団し、主に広報活動を行っている状況でございます。

本市では、これまで消防団員は減少傾向となりつつも、99パーセント以上の充足率を保ってはおりますが、サラリーマン団員の増加や少子高齢化等により、今後、更に団員確保が厳しくなることが予想されます。

こうした中、国は消防団員の減少や高齢化等に対する一つの施策として、学生消防団活動認証制度を推進しております。この制度は、学生が一定期間、顕著に消防団員活動を行ったことに対して、学生消防団活動認証状を交付するもので、これを就職活動に使っていただくことで、消防団活動に関わっていただくための動機付けにしたいという工夫であり、将来の地域防災の中核を担う若い人材確保を目的としているものでございます。

学生消防団活動認証制度につきましては、本市といたしましても、他都市で就学している大学生等が本市に就職していただく受入れ体制として構築することが必要であることから、導入を前提に検討して

いるところであり、本年2月には担当職員が県の職員と共に、信州大学工学部及び教育学部を訪問しまして、消防団員数の減少状況や活動内容、さらには、女性や若者への勧誘活動を強化していることについて大学の担当者に説明するなど、大学生等の入団についてお願いしているところでございます。

議員御指摘のとおり、学生消防団活動認証制度は、大学生等が卒業後においても消防団活動や自主防災活動などに参加し、地域防災の担い手となることが期待されます。11月末には総務省消防庁から、国立、公立、私立大学の学長宛てに大学生の入団促進の依頼文が出されております。本市におきましても、信州大学工学部、教育学部を初め、短期大学や各種専門学校が多いことから、大学の方針や大学生などの自主性に配慮しつつ、中核市や他都市の状況の調査研究を重ねるとともに、消防団協力事業所などを中心に、大学生等の消防団活動が積極的に評価される働き掛けなどを含め、導入に向けて更に検討してまいります。

◆4番（松井英雄君） ありがとうございます。

研究という答えかかなと思っていたんですが、導入を前提にというお話でありましたので、そんなにお金が掛かるものでもございませぬので、しっかり門戸を開くという意味で、東京あるいは松山市等でも活用されている制度でありますので、その学生が、長野市にもこういう制度があつてということで、じゃ、長野市にも就職してみようかなという、一部ではあるかもしれないけれども、そういった面もあるかと思っておりますので、一日も早い制度導入をよろしくお願いいたします。

続きまして、日本を代表するニジマスの聖地、犀川について伺います。

10月23日、薄暗い早朝5時頃には、多くの県外車が道の駅大岡特産センターに駐車されておりました。第3回信州犀川孤月釣り大会が、釣り仲間の間ではカリスマと言われる細山長司さんもゲストとして参加され、道の駅大岡特産センターにて開会式が行われ、130名余りの方が参加され、盛大に開催されました。参加者のほとんどが県外から来られた方で、毎年犀川のニジマス釣りと秋の信州を楽しむために参加されているとのことです。

現在では、犀川は豊富な水量とごみもない景観もすばらしく、日本を代表するニジマスの聖地として全国に名をはせる漁場です。一般溪流が禁漁となる10月からも通年釣りができるのは、下流の犀川殖産漁業協同組合管轄エリアのみで、大八橋から更科橋の区間はキャッチアンドリリース区間が設定され、大型のニジマスが釣れるとのことです。毎年釣り雑誌には、犀川のニジマスの魅力を伝えていただくとともに、道の駅大岡特産センター、さざり荘などの食事も紹介されており、人気のスポットとなっております。犀川殖産漁業協同組合管轄エリアの釣り人の年間延べ人数は、釣り券販売などから約1万人近い方が釣りを楽しんでおられる一方で、今回の大会のようなイベントは少ないとのことです。主催者からも、県外から多くの方にお越しいただいていることなどから、何か犀川の釣りで地域おこしができないかと様々御提案を頂き、一緒に考えてまいりました。

幾つかありますが、大会に合わせ早朝ではありますが、大岡、信州新町の地元の農産物を販売してはどうか、早朝で冷え込むことから、キノコ汁を振る舞ってはどうか、長野市長賞を出し、リンゴ、おやきなど長野市の特産品を味わい知っていただいているのかなどです。これまでも何度か各部にお聞きしましたが、釣り大会誘致、支援、犀川の釣り環境整備について改めて伺います。

地域の活性化の観点から市民生活部に、農産物販売で農林部、釣りという犀川でのスポーツの観点から文化スポーツ振興部、多くの県外の皆様が楽しめるという観点から商工観光部に、それぞれ犀川の

釣りを通しての各方面での更なる活性化の可能性、支援、釣り場の案内整備などについてお聞きします。

◎**市民生活部長**（竹内好春君） まず私からは、地域活性化の観点からお答えを申し上げます。

犀川の釣り環境につきましては、犀川殖産漁業協同組合の皆様の御尽力により、議員御指摘のとおり、今では日本有数のニジマスの聖地となっていることは承知いたしております。また、その組合員の中には、釣り好きが高じて信州新町に移住してこられた方もいらっしゃるとお聞きしております。この他、犀川では既にカヌーやラフティングといった水上スポーツも盛んに行われているとともに、川沿いには大岡や信州新町の道の駅、さざり荘などの施設もございます。

地域の活性化の観点ということから申し上げますと、こういった観光資源も絡めて、サフォークやジンギスカン、地元産の新鮮な野菜などをどのように生かしていくのか、犀川殖産漁業協同組合を含め、住民自治協議会や観光協会などがそれぞれ個々単独ではなく、お互いに連携し、一体になって事業に取り組むことが、少子高齢化などが急速に進む状況下における今後の地域活性化の上で、また、事業としての相乗効果を図る上でも重要であるものと考えております。

市としては、こういった活動を精一杯支援していければというふうに考えております。

◎**農林部長**（西島勉君） 農産物の販売についてお答えいたします。

御提案を頂きました犀川の釣り大会を初めとしまして、県外からも大勢の参加者が集まるイベントは、長野市のおいしい農産物をPRする良い機会だというふうに考えております。昨年のホクト文化ホールでの全国都市問題会議や、今年の南長野運動公園オリンピックスタジアムで開催されました全国消防操法大会でも、農協がリンゴを販売しました。その他、AC長野パルセイロのホームゲームでも、季節に応じた農産物の販売を行っているところでございます。

今回御提案の、イベント会場が道の駅ということであれば、既に農産物を販売しております。いろいろな柔軟な対応ができるかと思えます。その他の会場であれば、イベントの開催時期にもよりますけれども、主催者から御相談があれば農協や地元の生産者団体と相談して対応してまいりたいと考えております。

◎**文化スポーツ振興部長**（倉石義人君） 釣りという犀川でのスポーツの観点からお答えいたします。

市内では、各種の競技団体が主催するスポーツ大会等が数多く開催されており、市では、団体からの申請に応じ、大会の名義後援などの支援を行っております。また、全国大会など大規模なものや多くの観客が見込まれる大会等については、会場となる体育館やグラウンドの優先予約を含めて、誘致、開催を支援しております。

川などで行われる釣り大会につきましては、アウトドアのレジャー的な要素が強いものではあります。近年ではスポーツフィッシングとしての釣りを楽しむ方も多くとお聞きしております。競技団体や地元の関係団体などが中心となって、地域振興も含めてスポーツフィッシングの大会等を誘致、開催するのであれば、地域の活性化にも寄与することから、他のスポーツ大会と同様に名義後援などの支援をしてみたいと考えております。

◎**商工観光部長**（久保田高文君） 議員御指摘のように、釣り大会が行われているこの地域には、道の駅

大岡特産センターがございまして、今年10月の大会の際も大会参加者の集合場所、そして開会式会場となっておりますことから、参加された皆様方に、大岡地区を初め、長野の特産品を知っていただくことは大変有意義なことだと考えております。

また、訪れていただいた皆様には、近隣にありますさぎり荘や大岡温泉などにも足を延ばしていただき、冷えた体を癒やしていただくよう御案内するとともに、こういった機会を利用いたしまして市内の観光施設のPRを行ってまいりたいと考えております。

◆4番（松井英雄君） ありがとうございます。

毎年このように釣り雑誌に、犀川がただで載せていただいております。これを見て県外の多くの皆様、この大会でも遠くは青森のスコップ三味線の家元の方がお見えになって、演奏もあったというふうにお聞きしております。各部精一杯の御支援をしていただけたということでありましたので、また様々御相談させていただきながら、何か犀川の釣りを通して地域の活性化になるように、市長の最重点課題である中山間地域の活性化に向けて努力していきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

以上です。